

ロイヤルウインターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修

池田 辰実



日程：2018年11月7日～11月13日

参加者：20名

訪問地：トロント（カナダ）、サンフランシスコ（USA）

① ベン牧場

搾乳頭数480頭、3回搾乳、400ha農地を保有しコントラに収穫・還元作業を委託している。農地価格1haあたり3万\$（1\$約85円）、牧場資産総額32億円程。

乳価70¢で、カナダの最低賃金は時給17.5\$。

飼養形態はデントコーンとグラス主体。産次は4.3で、牛床ベッド敷料に砂を使用、砂代は年間7万\$かかり、削蹄は年1回、肢蹄の治療が必要になれば随時行う。

搾乳牛には基本的に同じ餌を使用し、乾乳にて違う餌を給与、受精は2回までメス精液を使用し群の4割の牛にしか受精しない。他6割は肉牛用の精液を使用する事で、残したい牛の遺伝子だけを残す取組みをしている。生乳生産コストは55¢。

ケトーシスの血液検査を実施し、分娩後3週間の間で4回検査を実施、乾乳にしてから咀嚼計を付けて食い込みや異変を図っている。育成牛は85%ミキシング餌を使用し、15%繊維飼料を給与。

傷病は基本的な部分は農家を実施し、どうしようもない場合に獣医にかける。カナダには日本のようなNOSAI制度が無いので診療費が異常に高い。薬は獣医に頼む形で年間100万円程かかっている。病気の子牛にはミルク・電解水・痛み止めで治療している。

雇用者もいるので、業務の質を一定に出来るように図っている。経営理念が確立されており、牧場の方向性が決まっている。



② ロイヤルウインターフェア



トロント中心部よりバスで15分ほどのスタジアムで行われている農業祭。冬はアイスホッケーなどのスタジアムとなる会場内で、牛、馬などの共進会や乗馬大会が行われている。我々が訪れた日が共進会2日目の最終日で、グランドチャンピオンも行われていました。日本の共進会とは違って一般公開型で様々な出展ブースがあったりで家族で来て楽しめるような雰囲気でした。牛の出陳待機場など公開されており、自由に牛を見て回る事が出来る形となっておりました。

牛・馬の他に、豚・鳥・羊・アルパカ・アヒルなども展示しているブースがあり、生産方法や飼育環境などの説明パネルも展示してありました。



③ ヒルマー乳業

全米のチーズ20%をシェアに持つ乳業メーカーで、チーズの他にホエイパウダーやラクトースパウダーなども生産している。PB商品などのOEMも行い、高い製造技術を持つ人材も多く在籍している。干ばつ地帯なので、排水などを浄化再利用している。

品質重視で価値創造をコンセプトとした商品作りを軸にイノベーションを強く求めた経営戦略を図る。1984年創業。

日量1200tを処理し、工場から2時間圏内の200戸の酪農家から生乳を受入れている。

30%がジャージー品種。



排水72%を浄化再利用し、20%の電力を自家発電（ソーラー）、良質乳にはプレミアム乳価を設定し、HACCPとSQF認証している。今現在は売上比30%がチーズで他はホエイとラクトースで輸出などの製品も多く製造している。

工場内は見学スペースが設置されており、製造場をガラス越しで見学出来たり、会社概要や酪農、乳製品についての説明パネルなどが充実していました。工場内に直売所も設置されており、チーズやグッズなどを買い物出来たり、チーズの量り売りもおこなっている。



④ カナダ・アメリカのマーケット

ショッピングの際にデパートやスーパーのマーケティングを行い、畜産物や乳製品の事情を見ました。アニマルウェルフェアの表示では、段階別に設定されており、A2牛乳などもありましたが、全体のマーケットからはニッチな部分である印象でした。牛乳は、脂肪分別に分類されており、0～4%まで、1%刻みで存在しており、詰め替え用的な袋売りもされておりました。健康志向やダイエット志向が強い中で出来たマーケットのようで、お客の多様化に合わせたマーケットが作られているように感じました。

